

高知大学と連携事業について調印式を行いました

10月6日、高知大学朝倉キャンパスで、国立大学法人高知大学と黒潮町が、連携して事業を実施するための協定書について、調印式を行いました。

この協定は、高知大学と黒潮町が、それぞれ持っている知識や経験を共有し、お互いが連携して、具体的かつ実践的な活動と事業の推進を図ることを目的に締結され、双方からメンバーを出し合い、連携協議会（仮称）を発足することが確認されました。

高知大学は現在、地域にある国立大学ということで、地域に根ざした教育や実践活動および情報発信を行うとともに、地域を担う人材の育成と確保といったことに力を入れており、黒潮町においては、「地域雇用創造推進事業」・「地域雇用創造実現事業」などの雇用促進や、「カツオ産業・文化のまちづくり事業」、「黒潮印の商品開発」などの産業振興といった分野を中心に、町の計画や施策など多岐にわたり連携していき、町の発展につながることを期待されます。

調印式では国立大学法人高知大学学長の相良祐輔氏より

「地方にある大学は、中央にある大学との役割分担が近年変わってきた。地域との連携を強化することで、地域資源の掘り起こしと、付加価値を高めることにつながれば」とのあいさつをいただき、それに応じて下村町長は「わが町の振興計画は職員が考えて作成し、それを誇りに思い実践してきたが、地方の疲弊は現在、ピークに達しつつある。大学の持つている知識や人材をフルに活用し、お力をお与えたいいただきたい」とのあいさつしました。



左が国立大学法人高知大学学長の相良祐輔氏

よりよいホエールウォッチングを目指して「WW会議」

9月30日、ふるさと総合センターで土佐湾ホエールウォッチング会議が行われました。当日は町内外からホエールウォッチング事業所やタジラを専門とする関係者らが集結し、午前中はホエールウォッチング、また午後からは各地での活動紹介や今後の事業展開についての提案などが話し合われました。黒潮町では県内でも数多くの遊漁船を有し、同会議の主催者でもあるNPO砂浜美術館が予約受付、漁業と並行して遊漁船を営む漁師との調整を行っています。



専門家から「黒潮町の特徴はどこも違う。他と同じことはできないが、事例を参考にして、どこにもない事ができるのではないか」とアドバイスが。

土佐さがカツオのタタキ 岡山蒜山高原で大好評！

9月27日、岡山県真庭市の蒜山高原で行われた「海の市・山の市2009真庭」に黒潮町から漁協佐賀統括支所の青年部・女性部と関係者一同がカツオのわら焼きタタキとイヨ（魚飯）を出店してきました。真庭市や沿線市町村から約100店もの特産品ブースが立ち並ぶ会場で、高知県から黒潮町、土佐市、須崎市がカツオのわら焼きを出演。販売開始前から予約のお客さんで長蛇の列となり、わずか2時間足らずで2000本のタタキが完売という盛況振りでした。



本場の漁師のカツオさばきに、お客さんの目は釘づけ！黒潮町商工会が開発中のカツオの亀田揚げも、試食したお客さんから「おいしい！」「どこで買えるの？」と、大変好感を得ていました！

「馬荷の七立栗」今季最後の出荷作業

かきせ川地域では、弘法大師が残したといわれる馬荷の七立栗の保存活動が七立栗保存会を中心に行われています。9月26日には、今期最後の出荷を迎えました。JA高知はた南部事業所の西さんによると、平成20年から本格的な出荷を始めた七立栗は、枝栗として主に県外に出荷されており、花と同じく生け花やアレンジなどで使用されているとのことです。



作業を行う堀川寛さん。「栽培や出荷には力仕事も少なく高齢になってもできます。これからは生産活動をいっしょにする仲間づくりに力を入れたい」と話してくれました。



右:めったにできない石臼ひきは、みんなで交代に体験。「楽しい!」「懐かしい!」と喜ぶ声が響きます。左:新釜での煮出し。

佐賀北部地域協議会かわうそ部会が鈴地区で昔ながらの豆腐づくり体験をお試し

佐賀北部地域(中ノ川・小黒ノ川・川奥・荷箱・拳ノ川・佐賀橋川・市野瀬・鈴の8地区)では、地域の活性化を図るため、地域の有志らが佐賀北部地域協議会を立ち上げ、若山楮の復活、ゆずなどの農作物の栽培、新商品としての卯の花モチの開発などの活動を行っています。

10月11日、鈴地区の漁港周辺で、同協議会「かわうそ部会」のメンバーと地域住民が、

町内外の方々を対象とした自然体験メニューづくりをと、地域でかつて豆腐屋を営んでいた広田万子さんに教わりながら、昔ながらの手づくりの豆腐づくりを試みました。

水は井戸から汲みあげ、大豆は国産、にがりは町内で海水から作られた自然のものを使用、一晩水に浸した大豆を石臼でひき、薪釜で煮だてるなど、当時の手法に加えて材料にもこだわった豆腐を手づくりしました。

「石臼をひくこと、井戸から水を汲みあげることもええ体験になるね」「材料がええき味が全然違う」「一人用の型枠があったらえいね」参加者からはアイデアが次々と。鈴地区の地元住民でもあり、かわうそ部会の青山茂子さんと広田さんは「自分たちが小さい頃に鈴で売られていた昔ながらの手づくり豆腐を、地域内外の人達に体験させてあげたい。数は限られるが販売にもつなげていけたらと思います。」「今日は本当に楽しかった。希望があれば学校に出向いて教えに行きたい。」と話してくれました。

鈴地区の港の風景

佐賀北部地域協議会の豆腐づくりが行われていた鈴漁港では、ポカポカと陽の射す青空の下、約10人の漁師たちが一丸となって10月下旬から始まる大敷漁の準備を行っています。大敷漁は、台風などは、海中にイカリだけを残り、広げた浮きや網などをすべて陸に引き上げるため、毎年こうして準備が行われます。その付近では、イセエビ漁で裂けた網を馴れた手つきで修復する漁師やその家族の方々が忙しい中でも、地域内外に関わらず声を掛け合い、温かく人を迎える場面も見かけます。

地域にとつてはいつもの風景、滅多に来ることのない者にとつては、なんとも言えない魅力とあたたかい気持ちを感じられる場所です。



らっきょうの花、知ってますか。



地元の農家が栽培している「らっきょう」、黒潮町の特産物のひとつです。毎年9〜10月頃に植え付けが行われ、4月にはいっせいに収穫・出荷が始まります。

普段は食べ物としての印象が強い「らっきょう」ですが、11月には紫色のかわいらしい花を咲かせます。中には、白色をしたものもあります。入野松原周辺では、まるで紫の絨毯が敷きつめたようならっきょうのお花畑が一面に広がっています。砂浜美術館のイベント「らっきょうの花見」が今年で10周年を迎えました。

らっきょうの花見 10/27~11/23【期間中の催し】

- 俳句と絵手紙を募集しています。テーマ「砂浜の秋」
- クイズラリー 11/21(土)、22(日)、23日(祝日)
周辺7カ所に点在するクイズ。全問正解の方には「黒潮町産らっきょう漬け」プレゼント
- きむらとしろうじんじんの野点 11/21(土)
ご自分で絵付けした楽焼茶碗で、お茶を楽しめる移動式カフェ
- らっきょうの花のしおりづくり 11月22(日)
お花見の記憶に彩りを添える一品を作りませんか?
- らっきょうの花入り和紙で掛け軸づくり 11/23(祝)

お問い合わせ
NPO砂浜美術館
☎43-4915
<http://www.sunabi.com/>